

## 生演奏をそのまま包む本場ホールの素晴らしさ！ ～イタリア・ウィーンを旅して～

ローマ（4泊）－シエナ（1泊）－フィレンツェ（3泊）  
－ミラノ（1泊）－ウィーン（4泊） 6月15日～29  
日の約2週間、ローマを出発点に北上する旅をしてしま  
した。

誰もがちょうど良い時期だね、というし、日本の梅雨時  
を避けて、からりとした気候のヨーロッパに快適で過ごせ  
る、しめしめ、と成田を発ちました。

ところが皆さん、報道でご存じかと思いますが、何とヨ  
ーロッパは熱波！熱波！ アルプスを越えればきっと涼し  
いに違いないと期待したウィーンも暑ツー！ かなりこた  
えました。

「イタリア」 この国好きです。また行きたい、というの  
が実感です。ヨーロッパの基礎を形造った古代ローマやル  
ネサンスの現場という意味ではたくさんの感慨、感想があ  
りますが、今はまだ咀嚼（そしゃく）中。

ところで、野菜、果物の何というおいしさ！ ストレ  
ートに照りつけるお日さまが、この野菜や果物を作ったに違  
いない。まさに「オー・ソレ・ミオ」の国。

それにしても、よく飲みました。全行程中、ワインを空  
けなかったのは1日だけ。トスカーナのロッソ（赤ワイン）  
は特に好きで狙い撃ち。ミラノでは1999年のモンタル  
チーノのロッソ、などとワイン通みたいなオーダーをし  
りました。

「ウィーン」 ムジークフェラインでウィーンフィルを聴  
く、フォルクスオパーでオペラを観る、が、今回の目標の  
一つでした。

ムジークフェラインは会議場として作られたホールで  
す。マイナーチェンジを加えながら、世界一のホールとな  
りました。生のクラシック音楽には、シューボックス型（靴  
箱型）、つまり天井高く（教会みたいに高くはありません  
が）幅は狭い、客席に向かって奥行きは深い、という形が  
良いという通説は、このホールの存在抜きには語れません。

残響が長く、クラシック向きで、現代音楽には向かない  
などという人が多く、何となくボンボンした音を想像させ  
ます。今回初めてムジークフェラインを聴いた私の感想は  
それとは違いました。（6月25日）

「リアルである」その一言に尽きます。金属的な要素の  
全くないしなやかな響きが、絵空事でなく会場にいる全  
ての人に生き生きと届く。フォルティッシモの総奏の部分も、  
一つ一つの楽器の音が、一人一人の意志として耳に心に達  
する、と同時に共鳴し合う。つまりハモる。音が支配する  
時間を聴く側が同時に体感している、身ぶるいするような  
戦慄、これこそ生演奏の醍醐味！

いったいこれは何なんだ、ステージを見てみよう…。い  
や、とりわけ、とにかく狭い。皆、身を寄せ合うように、  
ひとかたまりになって弾いている。コントラバスは後ろの

壁に寄りかかっているのではないかと思えるほど。壁のそ  
ば、ヴァイオリンの最後列の奏者の弓はすぐ後ろの横壁を  
突っついてしまいそうだ。つまり、ステージの奥行も狭く、  
横幅は最大限狭いのだ。従って客席は細長く、うしろに伸  
びているように見える。もちろん天井は高い。でも、ちょ  
うど良い高さの実現されているのだろう。

そして、壁面や天井の装飾の豊かさ。シャンデリア。音  
響上の配慮からこの内装は考えられているのではない。建  
築の内装の「様式」に過ぎないのだ。それが音をよくして  
いる。

…6月25日、ムジークフェラインに於けるズピン・メ  
ータ指揮ウィーンフィルのコンサート。その2階席の一番  
前で、キョロキョロ会場を見廻している変な日本人、そう、  
それは僕です。

### 6月27日 フォルクスオパーでモーツァルト「魔笛」

オペラ専門ホールは例外なく馬蹄形。客席は半円状に設  
けられ、見やすくできている。私にとって最も大きな興味  
の一つは、オペラが歌・音楽による演劇なので、たくさん  
垂れ下がった幕や、当然ステージ上に音を反射させる天井  
が無いこと。どう聞こえるのだろうか。

序曲では、25日に聴いたムジークフェラインの音が耳  
に残っている故か、やせた音に聞こえた。ティンパニがト  
ンツ、トンツと鳴ってしまうのだ。ところが歌が入ると実  
に絶妙なバランスに聞こえる。

私の日本での経験といえば東京文化会館で約10曲くら  
いのオペラを吹いたことがある。（都響の一員として）ほ  
とんどの場合、指揮者の歌手に対する注文は「聞こえない！  
言葉がはっきりしない！子音をハッキリ！アなんだかイな  
んだかわからない！母音が皆同じだ！」。オーケストラに  
対しては「落として！落として！音を殺して！」

ところが、フォルクスオパーの歌手たちは、まるでしゃ  
べっているような、会話をしているような声で、何の無理  
も感じられないように歌う。アリアでも、これ見よがしに  
大声で、とはならない。逆に場面によってはオーケストラ  
よりもっと小さく、デリケートに、というような境地で歌  
っているように聞こえる。オーケストラは決して音を殺さ  
ない。それでもオケの響きの中から、しっかりと歌が埋も  
れずに聞こえてくる。本当の専門ホールとは、こんなに素  
晴らしいものなのか。

いろいろ書きましたが、音楽がどう聞こえたかを言葉で  
表すのはたいへん難しいです。以前、会報にも書かせてい  
ただきましたが「えも言えぬ」「言葉に言い表せない」世  
界だからでしょうね。

私の感じたことと正反対のことを感じる人もいるでしょ  
うし、だからといって話し合っただけで結論を見つけさせる事柄

でもないでしょう。ただ、私の立場は演奏者ですので「クレメンティア」の方向や怠りない改善をめざす上で、私自身の感想はそのまま素直に今後に活かしてゆきたいと考えております。

10月10日のクレメンティア第2回演奏会の準備は、演奏者、世話人共々、着々と進めております。7月中にはポスター・チラシが皆様のお目にとまることとなりましょう。

第2回演奏会では第1回よりさらに室内楽的要素は強くなります。演奏者の人数は9人。パリ帰りの加藤えりなさん、ロンドン帰りの佐々木絵理子さんという新進をご紹介できるのはうれしいことです。

また、第1回では都合のつかなかったヴィオラの名手・安藤裕子さんも初登場ですね。テオルボ（皆さん、この楽器をご存じですか？ 私も一度しか接したことがありません）の田中仁良さんは特別参加でパッヘルベルやヴィヴァルディがどんな音になるか、楽しみにしててください。

1日も早い梅雨明けを願いつつ。



7月9日（団長 湯川和雄）

暑中お見舞い  
申し上げます。

## ◆ 室内合奏団クレメンティア 第2回コンサート ◆

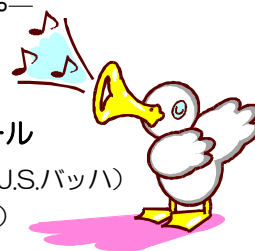
2005年10月10日（祝）14時開演（13時30分開場） 我孫子市民会館大ホール

曲目：カノンとジグ二長調（パッヘルベル） フルートとチェンバロの為のソナタ短調（J.S.バッハ）  
フルート協奏曲第4番ト長調（ヴィヴァルディ） 弦楽五重奏曲ト短調（モーツァルト）  
フルート協奏曲ト長調（シュターミツ）

出演：湯川和雄（フルート） 加藤えりな・佐々木絵理子（ヴァイオリン） 中山良夫・安藤裕子（ヴィオラ）  
松本ゆり子（チェロ） 田中洪至（コントラバス） 田村仁良（テオルボ） 平野智美（チェンバロ）

入場料（全席自由）：前売り：一般…3,500円 小中高生…1,000円 友の会会員券…3,000円  
当日：一般…4,000円 小中高生…1,000円

主催・お問い合わせ：室内合奏団クレメンティア友の会（TEL：04-7187-0960 山中）



## ★会員の皆さまへコンサートのお誘い★

湯川和雄と弟子たちによるフルート&フルート演奏会 #1 「バロックの巨匠 Bach & Telemann」

2005年7月29日（金）18:00開演 会場：我孫子市民会館大会議室

★出演：湯川和雄（室内合奏団クレメンティア） 稲葉理恵（東京音大卒） 斉藤真由美（芸大院修了） 佐藤由香理（芸大卒）  
高須洋美（桐朋学園専攻科卒） 長堀美佳（武蔵野音大卒） 三澤美佳（国立音大院修了）  
土井瑞穂（チェンバロ・芸大院在学） 松本ゆり子（チェロ・室内合奏団クレメンティア）

★曲目 トリオソナタ長調 フルートソナタホ短調 他（バッハ） 食卓の音楽第2集より 他（テレマン）

★全自由席 2,000円

★連絡先：Tel 04-7183-0444、Fax 04-7186-2555（湯川）

音大卒業後も鍛錬を続け、音楽を深めつつある頼もしい弟子たちと共にバッハとテレマンの名曲の数々を演奏することは、私にとって大きな喜びです。なお、会場の大会議室にまたまた仕掛け？を…逆転の発想をお楽しみ下さい。（湯川 和雄）

### ★★サポーターの輪が広がっています！★★

前号で室内合奏団クレメンティア友の会活動を支えるサポーターを募集したところ、少しずつですが名乗りをあげて下さる方が出ています。なんとか成功した第1回演奏会をふりかえっても、延べ人数にすると大変多くの人々による準備が続きました。今回お送りした会報と演奏会チケット申込書も、7月25日の晩、天王台北近隣センターに仕事帰りの事務局世話人とサポーターで都合のつく方が集合して、3時間かけて印刷・封筒詰め作業をし、配達・郵送を経て、皆様のお手許に届けられたものです。他にもチケット販売スタッフ、本番ステージの諸準備など、演奏会までの仕事はとてたくさんあります。可能な時間に可能な仕事を、ご自分の生活ペースを守って室内合奏団クレ

メンティアを手伝っていただけませんか？ クレメンティア演奏会を成功に導く裏方の喜びを事務局とご一緒に味わいましょう！ サポーターになっていただける会員の方は、下記までご連絡下さい。

Eメール：clementia\_fan-owner@yahoo.co.jp  
Tel・Fax：04（7188）1673  
〒270-1132 我孫子市湖北台2-7-25  
室内合奏団クレメンティア友の会事務局長 山下 広之

※会員の皆さんがご住所やメールアドレスなどを変更した場合は、必ず事務局までお知らせください。